

# MOL Report

**MOL**  
商船三井

証券コード：9104



「ブラジル沖でシュート！」 切絵：柳原良平

## 平成26年度 中間報告書

2014年4月1日から2014年9月30日まで

SINCE 1884  
**130th**  
Anniversary

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成26年度（2014年度）中間期（第2四半期累計期間）の業績につきましてご報告申し上げます。



代表取締役 社長執行役員

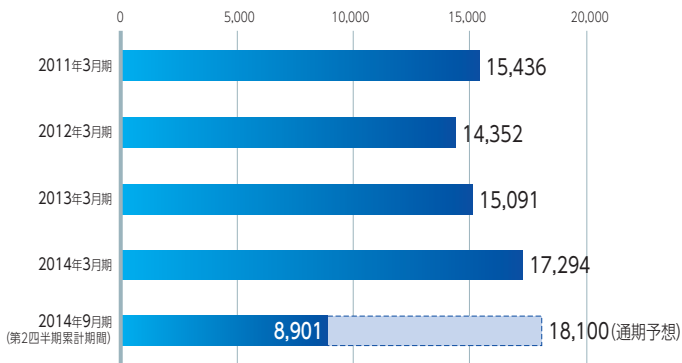
武藤 光一

▶業績と配当

今年度は新たに策定した中期経営計画「STEER FOR 2020」の初年度であり、当中間期の連結業績は、売上高8,901億円、営業利益42億円、経常利益145億円、四半期純利益115億円となりました。通期の連結業績は売上高

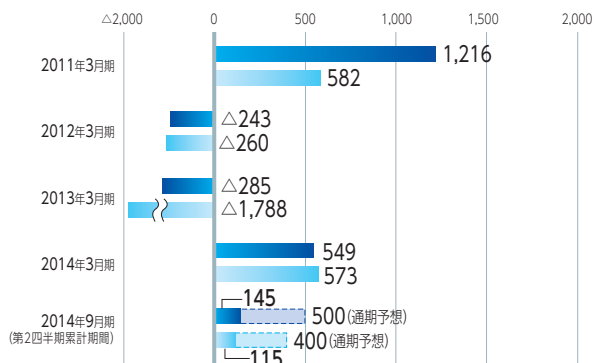
売上高

(単位:億円)



経常損益／当期純損益

(単位:億円) ■ 経常損益 ■ 当期純損益



1兆8,100億円、営業利益280億円、経常利益500億円、当期純利益400億円を予想しております。

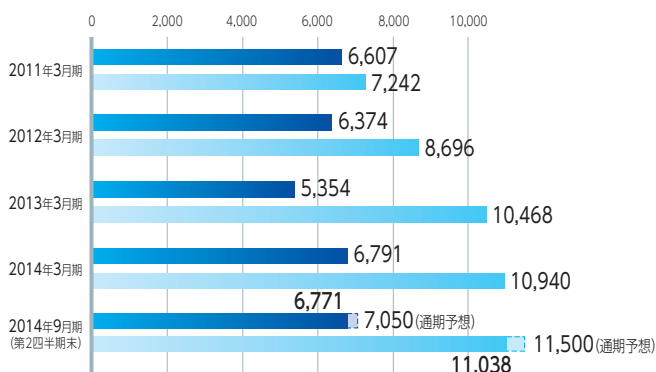
配当につきましては、当社は連結配当性向20%を目安としており、上記業績見通しを前提として、当期の年間配当は1株当たり6円を予定、うち中間配当金は1株当たり3円とさせていただきます。財務体質強化に留意しつつ、長期安定利益をもたらす成長分野への積極投資を進めておりますので、株主の皆様のご理解をお願い申し上げます。

## ▶事業環境

米国など一部の国で景気が拡大した一方で、日本や中国における景気減速の影響を受け、海運市況は全般的に低迷しました。ドライバルク船部門は中国経済の成長鈍化などにより海上荷動きが伸び悩み、低調に推移しました。コンテナ船事業については、大型コンテナ船竣工による船腹需給ギャップが依然として大きく、黒字化には至っておりません。第3四半期以降については、世界経済の先行きが依然として不透明ながらも、より一層の中長期安定収益の獲得や運航効率の改善などを通じたコスト競争力の強化により、損益の改善に努めてまいります。

## 自己資本／有利子負債

(単位:億円) ■自己資本 ■有利子負債

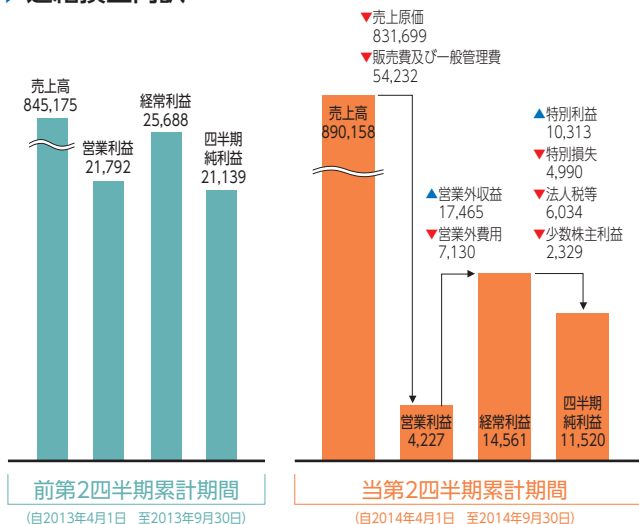


## 通期の見通し

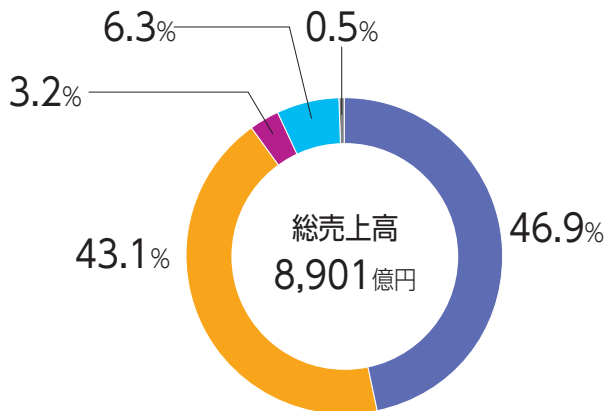
	前回発表 (第1四半期決算発表時点)	今回発表 (第2四半期決算発表時点)	増減額/増減率
売上高	18,300 億円	18,100 億円	△200 億円/△1.1%
営業損益	360 億円	280 億円	△80 億円/△22.2%
経常損益	500 億円	500 億円	—/—
当期純損益	400 億円	400 億円	—/—
為替レート	¥100.00/US\$	¥107.00/US\$	¥7.00/US\$
船舶燃料油価格	US\$620/MT (下期前提)	US\$500/MT (下期前提)	△US\$120/MT

※「売上高」「経常損益」は外部顧客に対する売上高、経常損益を表示しております。

▶ 連結損益内訳 (単位：百万円)

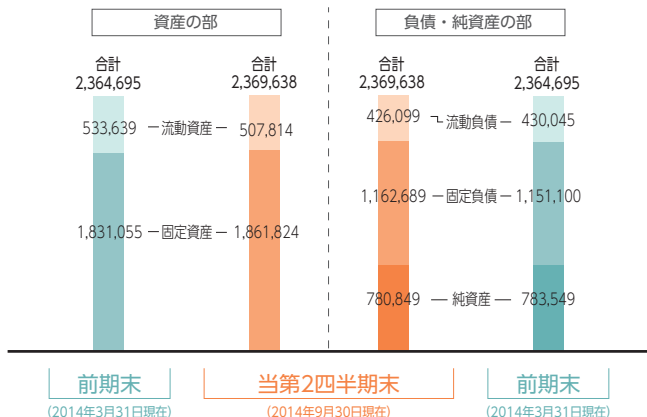


▶ 事業別売上高構成比



\* 外部顧客に対する売上高  
(金額は億円未満を切り捨てて表示しております。)

▶ 連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



不定期専用船事業

売上高 4,178 億円 前年同期比 +4.5 %  
経常損益 165 億円 前年同期比 △31.2 %



＜ドライバルク船部門＞

豪州の鉄鉱石出荷能力の拡張を背景に太平洋地域の鉄鉱石荷動きが堅調であったものの、ブラジル出し鉄鉱石荷動きの伸び悩みや中国の景気減速に伴う石炭輸入量の減少などが影響し、ドライバルク船市況は低調に推移しました。このような市況環境ながらも各種専用船の長期契約による安定利益が寄与し、運航効率改善やコスト削減に努めた結果、損益は前年同期比で増益となりました。

詳細な  
情報は

<http://www.mol.co.jp/ir-j/index.html>

商船三井 IR情報

検索

### <油送船・LNG船部門>

油送船部門では、原油船市況がほぼ横這いに推移したものの、LPG船市況が堅調なインド向けトレードや米国出し輸送需要に支えられ好調に推移した結果、全体の損益は前年同期比で改善し、黒字を達成しました。LNG船部門では、新造船の竣工により需給が緩む傾向が続く中、老齢船の早期退役や入渠に伴う費用増および稼働率の低下などにより、損益は前年同期比で減益となり、損失を計上しました。

### <自動車船部門>

自動車メーカーの海外への生産移管に伴う出荷拠点分散化方策により、日本出し完成車輸送が減少傾向にある中、三国間輸送および復航輸送における貨物の積取強化に努めましたが、新規航路の完成車輸送が予想した程伸びず、損益は前年同期比で減益となりました。

### コンテナ船事業

売上高	<b>3,835</b> 億円	前年 同期比	<b>+7.8</b> %
経常損益	<b>△108</b> 億円	前年 同期比	—



欧米の景気安定を受けアジア発北米向けおよび欧州向けの荷動きは堅調であった一方、中国を中心としたアジア向け荷動きは伸び悩み、運賃水準も弱含みで推移しました。南北航路では、荷動きが低迷し運賃水準が大きく下落しました。このような事業環境下、より一層の減速航海の実施などにより運航コストの低減を図りましたが、当中間期は損失を計上しました。

### フェリー・内航事業

売上高	<b>282</b> 億円	前年 同期比	<b>+2.0</b> %
経常損益	<b>20</b> 億円	前年 同期比	<b>+72.8</b> %



消費税増税や天候不順の影響もありましたが、モーダルシフトの進展や鋼材輸送が底堅く推移したことにより輸送量が増加し、損益は前年同期比で増益となりました。

### 関連事業

売上高	<b>564</b> 億円	前年 同期比	<b>△2.7</b> %
経常損益	<b>61</b> 億円	前年 同期比	<b>+7.3</b> %



首都圏を中心に賃貸オフィスマーケットが回復する中、主要子会社であるダイビル株式会社は高い稼働率を保ち、堅調な業績を維持しました。客船事業については、引き続き集客数を伸ばし損益は前年同期比で改善しました。その他の関連事業は総じて堅調に推移し、全体では前年同期比で増益となりました。

### その他

売上高	<b>40</b> 億円	前年 同期比	<b>+7.5</b> %
経常損益	<b>21</b> 億円	前年 同期比	<b>+8.2</b> %



主にコストセンターであるその他の事業には、船舶運航業、船舶管理業、貸船業、金融業、造船業などがありますが、損益は前年同期比で増益となりました。





## 新たな事業領域 「海洋事業」とは!?

FPSO

浮体式海洋石油・  
ガス生産貯蔵積出設備

※FPSO : Floating Production, Storage & Offloading System

この設備は、海上に浮かび、海底油田からパイプを通して油層流体（油分や水分、ガス等を含んだ混合流体）を汲み上げ、不純物（砂・泥・炭酸ガス・水分・金属分等）を取り除いて原油としてタンクに貯蔵し、輸送用タンカーへ積み出す能力を持っています。



(提供元：三井海洋開発)

FSRU

浮体式  
LNG貯蔵再ガス化設備

※FSRU : Floating Storage & Regasification Unit

海上に浮かび、LNGを再気化し、陸上パイプラインへ高圧ガスを送出する能力を持っています。

従来の陸上受入基地に比べ低コスト、かつ短期間に受入体制を整える有力なソリューションとして2005年に実用化されて以降、世界各地で導入計画が進んでいます。



(提供元：GDF Suez)



## 世界初の砕氷LNG船による LNG輸送プロジェクトに参画

当社は、このたび、ロシア・ヤマルLNGプロジェクト向け輸送に参画し、北極海航路に挑戦することとなりました。

北極海航路では、南極観測船「しらせ」と同等の砕氷能力を持つ“ARC7型”と呼ばれるLNG船を投入することにより、



ヤマルLNGプロジェクト  
トレーディングルート (イメージ図)

夏季(7~11月)であれば、スエズ運河経由で、これまで55日前後必要だった輸送日数を、20日前後に短縮することができます。

当社はこのプロジェクトへの参画を通じて、

## ロシア・ヤマルLNGプロジェクト において北極海航路に挑戦。

北極海航路運航のために必要なノウハウおよびリソースを蓄積して、当社事業の核である海上輸送サービスの一層の充実と拡大に取り組んでいきます。

### 解説 ヤマルLNGプロジェクトとは？

ヤマルには、巨大な天然ガスが眠っており、3つの鉱床群に235もの鉱区があります(内85鉱区が生産・開発中、150鉱区が探鉱中)。

2011年時点の確認埋蔵量は1,178兆立方フィート\*と、全世界の約2割を占めるなど、ハイリターンをもたらすチャレンジングなプロジェクトとして注目を集めています。

\*ヤマル半島を含むヤマロネツ自治管区全体の数字

▶ 会社概要 (2014年9月30日現在)

商号	株式会社 商船三井 (証券コード：9104) Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.
本社・本店	〒105-8688 東京都港区虎ノ門二丁目1番1号
資本金	65,400,351,028円
従業員	882人 (陸上605人 海上277人)

▶ 株式の状況 (2014年9月30日現在)

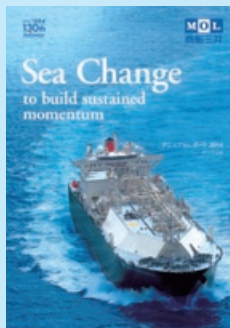
発行可能株式総数	3,154,000,000株
発行済株式の総数	1,206,286,115株
株主数	113,278名
所有者別の状況	

銀行・信託銀行	その他金融機関	外国人	個人	事業法人	金融商品取引業者・その他
29.4%	6.8%	29.9%	21.6%	5.8%	6.5%
354,322,263株	81,830,892株	360,960,228株	260,634,260株	70,236,254株	78,302,218株

さらに商船三井グループへのご理解を深めていただくために

当社グループの経営戦略やCSR・環境に関する考え方や取り組みをレポートとして公開しております。

ぜひ、ご覧ください。



環境・社会報告書▲

アニュアルレポート▶

閲覧・ダウンロードはこちら

商船三井  
<http://www.mol.co.jp/>

検索

▶ 役員 (2014年9月30日現在)

取締役	
代表取締役 社長執行役員	武藤 光一
代表取締役 副社長執行役員	佐藤 和弘
取締役 専務執行役員	渡辺 律夫
取締役 専務執行役員	池田 潤一郎
取締役 常務執行役員	田邊 昌宏
取締役 常務執行役員	高橋 静夫
取締役*	小村 武
取締役*	松島 正之
取締役*	西田 厚聰

監査役	
常勤監査役	津田 昌明
常勤監査役	太田 威彦
監査役**	伊丹 敬之
監査役**	山下 英樹

執行役員	
専務執行役員	永田 健一
専務執行役員	根本 正昭
常務執行役員	吉田 清隆
常務執行役員	八田 宏和
常務執行役員	橋本 剛
常務執行役員	西尾 哲郎
常務執行役員	小西 俊哉
常務執行役員	井上 孝昭
執行役員	丸山 卓
執行役員	小野 晃彦
執行役員	園部 俊行
執行役員	川越 美一
執行役員	堀口 英夫
執行役員	光田 明生
執行役員	八嶋 浩一
執行役員	赤坂 光次郎
執行役員	稲岡 俊一
執行役員	尾本 直俊
執行役員	田中 利明

\*は社外取締役  
\*\*は社外監査役

# 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 毎年6月

定時株主総会 毎年3月31日

基準日 期末配当 毎年3月31日

中間配当 毎年9月30日

上場金融商品取引所 東京・名古屋の各証券取引所

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)

インターネット <http://www.smtb.jp/personal/>  
ホームページURL [agency/index.html](http://www.mol.co.jp/agency/index.html)

当社ホームページに掲載します (URL[アドレス]は以下の通りです)。

公告の方法 <http://www.mol.co.jp/>

但し、事故、その他やむを得ない事由によりホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載します。

## 【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

## 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、三菱UFJ信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。上記の株主名簿管理人とはご照会先および住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

## 特別口座に関するご照会先

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)

## 株主優待制度のご案内

当社株主の皆様へ、「にっぽん丸」へのご優待券を年2回(6月下旬、11月下旬)送付しております。当社株主の皆様におかれましては、この機会にご優待券をご利用の上、「にっぽん丸」でゆったりとくつろぐ船旅をお楽しみいただければ幸いです。

9月30日現在のご所有株式数	ご優待券枚数
1,000株～4,999株	2枚
5,000株～9,999株	4枚
10,000株以上	6枚

(有効期間：2015年1月1日～2015年12月31日)

## 1クルーズお一人様2枚まで「ご優待券」をご利用いただけます。

- お一人様1枚ご利用の場合、旅行代金を10%割引させていただきます(但し、30日以上クルーズについては3%割引)。
- お一人様2枚ご利用の場合、旅行代金を20%割引させていただきます(但し、30日以上クルーズについては6%割引)。

▶他の優待割引制度との併用はできません。但し、熟年割引との併用は可能です。

▶「にっぽん丸」クルーズにつきましては、次の商船三井客船株式会社のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponmaru.jp>

☎ 0120-791-211 (受付時間/月～金 9:30～17:00)

携帯・PHSからは下記番号におかけください。

TEL: 03-5114-5280

